

令和5(2023)年度 事業計画書

令和5年5月

大阪国際学園

1. 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部

(1) 「教学改革の推進」

ウィズコロナ政策の方針の下、「対面授業」の運営体制を敷き、カリキュラムフロー・マップ等を踏まえた的確な履修指導や制度・体制の強化など、学生教育に関わる環境の整備を図る。

また、令和5年4月に新設される「IR室」による学修成果の可視化やFDセンターによる授業改善等を推進していくとともに、「グランドデザイン答申」や認証評価機関の評価指針等を注視していく。

重点施策としては、主に以下の2点である。

① 新型コロナウイルス感染症対応

- ・政府及び大阪府の方針を踏まえたウィズコロナ対応を推進し、極力コロナ禍前（令和元年度以前）の学内運営に戻す。
- ・授業は、科目特性等に配慮した一部の「遠隔授業」を除き、原則として「対面授業」を基本とする。また教室では、通常の収容定員で授業運営を行う。
- ・各種イベント（含学外活動）も積極的に展開し、学生交流を促進する。

② 教育の質保証、授業改革、大学認証評価等に向けた対応

- ・初年次教育の改善並びに学修成果の可視化を推進しつつ、令和6年度の大学認証評価受審に向けた諸準備を、関係部門と連携しながら推進する。

(2) 「募集活動の強化」

令和5年度運営方針に基づく入学者の確保に努める。主な施策は以下の通りである。

① 募集戦略の細分化

令和4年度の募集活動では、短大及び観光系、健康系の学科の苦戦が顕著であった。その反省を踏まえ令和5年度は、短大においては、専門学校との競合に勝ち残るため早期の選拔出願に繋げる施策を行う。大学においては、海外研修・海外留学の再開を強く打ち出し、観光系学科の希望者を獲得、またスポーツ行動学科との連携などにより、人間健康科学科の目標数確保を目指す。

② 入学意欲等を重視した選抜方法の強化

これまでの学力重視から入学意欲や高校での学習過程を評価する総合型選抜（AO）の強化を図る。AOの選抜方法に高校での探究授業の成果を組み込み評価する。さらに、事前のAO個別相談を増やすことで出願率の大幅アップを目指す。

③ 高大連携授業・探究学習の強化

大阪国際高校の教員とともに高大連携授業を探究学習型の授業として共同開発・実施する。この教育プログラムを教育協定校等にも提供することで、3年後以降のAO及び指定校推薦での安定的な受験生確保を図る。

(3) 「国際交流活動の推進」

ウィズ/アフターコロナ時代の海外プログラムに相応しいメニューで「グロー

バル短期研修」「長期留学」の正常化を目指す。

また、円の乱高下や国際環境の変化によるマイナス面に柔軟に対応しながら、令和 7 年大阪・関西万博に向けた機運の醸成を視野に「内なる国際化」を推進する。

重点取り組みとしては、

- ①交換留学・認定留学などの長期留学の再開
- ②短期海外研修メニューは、ホテルインターンシップや協定校訪問を含めて実施が可能なメニューから再開する。
- ③海外協定校とのオンラインプログラム、海外事情を学ぶオンライン特別講座、オンライン交流会・同窓会等を継続実施する。
- ④学部・短大及び留学生別科の留学生募集活動においては、コロナ禍により一度リセットされた多国籍化を目指し、内なる国際化を推進する。

(4) 「地域交流活動の推進」

連携協定先・地域企業と学部学科を繋ぐ活動を強化し、修学・実践機会の創出、拡大に取り組む。地域社会・住民との交流の中で、学生の学びや成長に繋がる実践活動の拡大と、地域における学園・大学・短大の存在価値を高めていく。

重点取り組みとしては、

- ①地域の政策課題（まちづくり・子育て支援・学習支援等）と学部・学科の専門性のマッチングを図り、PBL・フィールドワーク機会の拡大をめざす。
- ②地域住民との交流では、公開講座、キッズキャンパス、近隣中高生のキャリア教育支援など地域社会のニーズに沿った活動を行う。
- ③ボランティア活動では、AKV（関西空港駅ボランティア）活動の本格稼働や自治体・地域コミュニティが開催するイベントへの積極的な参加と新中高近隣エリアにおける絆づくり、高校IBコースの活動サポートに取り組む。

(5) 「課外教育活動の推進」

ウィズコロナからアフターコロナに向けて、以下の項目を軸とし、コロナ禍以前のクラブ活動に戻すとともに、更なる推進を図る。

- ① 場所並びに時間的使用制限のある運動施設に対する代替施設の確保と学生満足度の向上
- ② スポーツ・吹奏楽特別選抜入試による部員増に伴う指導体制の整備・強化
- ③ クラブ学生に対するエンカレッジ教育等の実践

(6) 「キャリア教育と就職支援の強化」

令和 4 年度より開始したキャリア教育新カリキュラムについて、基幹教育機構との連携によりスムーズな切り替えを図っていく。

就職支援については、対面・オンラインそれぞれのメリットを最大限活用する形を継続する。また、利便性を前面に打ち出す就職エージェントとの競合やオフター型採用への対応として、キャリアサポートセンターでは卒業生ネットワークの活用、フレンドリー企業を中心とする非公開求人への斡旋、本学学生の特性を熟知したキャリアカウンセラーによる面談等、OIU/OIC ならではのサービスを強化し学生満足度の向上に努める。

新大学 3 年次の就職活動は、夏のインターンシップ（オープンカンパニー）へ

の参加から実質スタートする。企業の早期採用プログラムへのスムーズな誘導を図っていく。

2. 大阪国際滝井高等学校

(1) 「特別施策の具体的推進」

滝井高校としての最終学年を迎えた一昨年より、3ヶ年計画で展開する施策の最終年となる。様々な学びや気づきを与え、大きなルールチェンジを迎えるこれからの時代を生き抜くために必要な知識やスキルを身につける「ヒロインPJ」(①～⑤)と、学校行事を通して好奇心を刺激し、感性や行動力・協調性を磨く「キラキラPJ」(⑥～⑨)を引き続き推進する。

- ① 著名人や卒業生等による特別授業「ヒロインセミナー」を年3回実施。
- ② アート制作を通じて感性を磨き、アート思考も学ぶ通年での総合探究学習「ヒロインプログラム」を実施。
- ③ 海外のイベント・風習を校内行事に取り入れた形での「異文化交流」を企画・実施。
- ④ 予備校講師による放課後自習室管理(チューター制度)を継続実施。本年は特に、英検対策に重点を置いた学習支援体制とする。
- ⑤ 各科・コースごとの実習・体験授業などのキャリア教育を通年実施する。
- ⑥ 昨年より2日間行事とした文化祭は、同窓会や後援会のサポートも得て、内容の充実を図る。生徒の自主性を重んじ、生徒主導の企画運営としていく。
- ⑦ 年2回、「ノー制服デー」を実施。
- ⑧ 芸術鑑賞として、クラシック音楽のコンサートを鑑賞。
- ⑨ 部活動の充実。バレーボール部を筆頭として、フェンシング部、ラクロス部、軽音楽部、ダンス部、吹奏楽部などの“全国レベル”クラブを中心に、最終年を飾るにふさわしい活動を後押しする。

(2) 「ICT 学習環境及び学習指導のより一層の充実」

これからの時代にマッチする学習環境の提供をすべく、ICTを有効活用することが求められている中、より安定的かつ利便性の高いICT環境の構築を目指すとともに、それらを活用した効果的な指導法を研究開発し実践する。

- ① ロイノートやGoogle EducationなどのICT機器の様々な機能を活用することで、探究的な学びや表現活動などを支援する。
- ② ICT機器を活用した学習支援に必要な知識やスキルなどを身につけるため、教員向けの研修や勉強会を計画的かつ体系的に実施する。
- ③ 突発的なりモット授業など学習の遠隔指導についての研究開発や設備の整備を進め、より充実した学習支援を行う。

(3) 「働き方改革の推進」

3年前に導入したグループウェア(サイボウズ Garoon)のさらなる活用により、業務改善と効率化を一層進める。また、1学年のみになったことによる教職員の人員縮小から、校務分掌の総動員体制を取るとともに、校内のICT環境の整備を進めることで一層の業務のシステム化を推し進めていく。

(4) 「特別企画の推進」

創立 95 年に及ぶ滝井高校の最終年度を迎えるにあたり、特別企画を展開する。実施期間は、令和 5 年 2 月 20 日～令和 6 年 3 月 1 日。(74 期の卒業式を起点として、75 期の卒業式で終了) テーマは「Grand Finale TAKII CAMPUS～Our Tradition Will Live On.」。最後の卒業式の 1 週間前には、在校生・卒業生・新旧教職員が一堂に会し、セレモニーを開催する。懐かしの秘蔵写真や動画・物品の展示、在校生による演奏・演技の披露、バレーボール部の現役 vsOB のエキジビジョンマッチなど、様々な企画を盛り込んだ式典・行事とし、滝井の歴史と伝統を関係者皆でかみしめる催しとしたい。

3. 大阪国際中学校・大阪国際高等学校

(1) 「教育内容の充実」

「基本戦略プラン」に沿った学校運営を実施。「質の高い学びとバランスの取れた人間形成」を実践する。

① 4 つの特色的な学びを通じた社会人基礎力の修得

「人間をみがく」「国際感覚をみがく」「創造力・表現力をみがく」「個を支える」学び・プログラムを展開する。

② 「目指す生徒像」の浸透と授業内容・評価との連動展開

国際バカロレア「IB Learner Profile」を全校の「目指す生徒像」に制定。授業や行事、課外活動などを通じた能力開発を行うとともに、生徒評価の際の基準としても活用していく。

③ 小笠原流礼法と挨拶運動

IB コースを除く高校のすべてのコースで小笠原流礼法の授業を正課で実施。「思いやりの心」や「感謝の気持ち」を育み、人間形成の基盤とする。また、学校を上げて挨拶の大切さを教え、生徒・教職員皆が挨拶を励行する学校を目指す。

④ スタートプログラムの展開 (中 1・高 1 対象)

生徒の「学び」と「人間形成」のための土台づくりとして、入学直後に本校独自のスタートプログラムを展開。学ぶ意義と姿勢を理解し、学校生活をスタートするにあたってのモチベーションを高める。

⑤ 探究授業の強化

「探究の大阪国際」との代名詞と呼ばれるような探究の授業を企画・開発する。外部交流、校外学習ともリンクさせ、思考力・想像力・表現力・共創力の伸長を図る。

⑥ 図書館の活用

約 1 万 5 千冊の蔵書を活用した読書活動 (朝読書、ビブリオバトル、Book Talk など) を推進し、言語活動の充実を図る。

⑦ 立志式の実施 (中 2・高 2 対象)

入学時より、自らの志を立てることの大切さやそれをサポートする講演などの取り組みを展開。2 年次の年度末に“志論文”を書き、立志式で自らの将来の目標を宣言する。そしてそれをモチベーションとして、質の高い学びからの進路実現につなげていく。

⑧ グローバル教育強化

国際バカロレアコースの展開、イマージョン教育の実施、英会話力強化プログラムの導入などにより、英語コミュニケーションスキルの向上を図る。また、海外研修プログラムの充実や留学生の受入、国際交流などを通じ、GLOBAL MINDの醸成を図る。

⑨ ICTを活用した教育の展開と充実

Chromebookを一人一台配備し、時代の要請に応えるICT活用教育を展開する。今年度新たに、「EdTech部」を設置。環境整備などのハード面はもとより、教員のスキル向上、授業内容の改善など、ソフト面での質向上も図っていく。

⑩ シンボリッククラブの展開

従来の女子バレーボール部に加えて、開校初年度は女子ラクロス部・吹奏楽部をシンボリッククラブと位置付け強化を開始。令和5年度からは男子硬式テニス部を新たに加え、強化を図っていく。

(2) 「募集広報活動の強化」

募集定員確保を必達すべく、全教職員あげて募集広報活動に取り組んでいく。ブランディング戦略により、本校の教育理念・教育内容に共感していただける入学者を確保していく。

① 教育方針をベースに「選ばれる」学校を目指す

教育理念をベースとした「目指す生徒像」実現につながる教育活動を訴求するアウトブランディング活動（イベント、ホームページ、SNS、個別相談会等）を強化する。

② 募集戦略に基づいた活動の展開

新キャンパスを最大限活用した募集イベントを基軸に、生徒・ご家庭に対するマス向け募集広報と中学・塾との関係構築によるファンベース・マーケティングの両輪で定員確保を図る。

IBコースの入学者確保に向けては、海外生の囲い込みに向けて、11月に帰国生入試・オンライン入試を実施。また、高校からのIBコース進学を志望する中学生の入学者数増強を図っていく。

③ 地域のファンづくり

アウトブランディング活動の一環として、小学生のご家庭を招いたハロウィンフェスタ開催や、大枝公園・パナソニックとの提携・交流などにより、「地域に愛される学校」を目指す。

④ 多様性チームによる募集広報戦略強化

外部から採用した高スキル人材（広報企画、WEBデザイン、広報営業）を加えた専担チームによる戦略的な施策の展開、目標の実現を図る。

(3) 「人材開発と組織改革」

教員の指導力強化、組織風土の改革、働き方改革を通じ、組織総合力を強化する。

① 若手育成：ピアサポート、導入研修

新任教員を対象に、ピアサポートプログラムにて先輩教員が新任教員の仕事面・メンタル面のサポートを行い、成長を支援する。

② 人材開発システムの構築準備

「教員力」の強化に向け、新たに人材開発システムを構築し、各種研修、体験の機会の提供を進めていく。教員自身も「学び合いの姿勢」を持つべく、研修の成果の情報共有や授業見学会なども定期的実施していく。

③ 中核・役職候補育成へ人材開発計画策定

人材開発システムにて、中核・役職候補人材の強化を図り、次世代の大阪国際を担う人材を計画的に育成する仕組みをスタートさせる。

④ 働き方改革・業務効率化の推進

組織運営上の無駄・非効率を極力排除し、業務の生産性を高めることで、教職員が「生徒に振り向ける時間」を極大化し、ひいては教職員の働きがい向上につなげる。また、BLEND 及び Garoon などのシステムや ICT を活用し、校務全般の効率化も図る。

⑤ 意識風土改革

教職員一人ひとりが新校の教育理念を理解し、「新校ファースト」で能動的に、かつ皆で協働するマインドを醸成すべく、インナーブランディング活動を計画的に推進していく。

4. 幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園

(1) 「教育・保育の充実」

建学の精神や理念に沿って、認定こども園としての教育・保育方針「生きる力の基礎を育成」に向け、基礎となる力を培う幼児教育・幼児保育を実現する。「こども園教育・保育要領」に基づく「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、健康な心と体、自立心、協調性など 10 の項目を重要項目として位置づけた取組みを行う。また、園児が将来国際社会で活躍するために必要となる英語力・読書力などの基礎づくり、パソコンなどの ICT 機器に苦手意識がうまれないよう、幼児期から親しみをもたせる取組みを行う。

(2) 「安全対策」

「園児の安全確保をすべてに優先する」という精神を具現化した安全管理大綱を基に安全対策を徹底する。また、社会問題となっている送迎バスの園児置き去り、園児虐待等については、教職員の意識の徹底と二重・三重のチェックを行い、園児の安全に万全を期す。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の予防については、学園危機管理委員会の方針の下、こども園教職員が一体となり、保護者との連携を密に図り、感染予防・感染対策に努める。園児の活動中においては、安全点検表を基に施設やその使い方を点検し、安全で充実した園舎・園庭・遊具を存分に活用する教育・保育が展開できるよう取り組んでいく。

(3) 「幼稚園教育と保育所機能の保育教諭同士の連携」

0歳児から5歳児までが活動する園舎では、園児の生活の流れや活動内容・行事内容についても違ってくるため、幼稚園教育の教諭と保育所機能の教諭並びに事務職員等が密に連携が取れるよう職員会議等を通じ情報交換を行い、全ての園児・教職員が安全・安心と充実した園生活を送ることができるように取り組む。また、全園児が係わりを持つ異年齢の活動を展開しながら、互いに認め合うことのできる人間関係を構築することができるように取り組む。

(4) 「情報の発信と園児募集」

一段と少子化が進む中、幼稚園としての長い歴史で培った質の高い幼児教育や0～2歳の3号園児と幼稚園の交流を通じ幼稚園教育へのなだらかな移行等、本園ならではの特徴ある活動について、ホームページ等を通じ発信し、知名度の向上を図り募集力の維持に努めていく。また、最新の園舎と学園グループのこども園としてのメリット（大学施設の活用、大学・短大・高校・中学の教員・学生との交流・支援など）を積極的にPRする。さらに、近隣地域との交流・連携を深め、地域の子育てステーションとしての存在を高めていく。合わせて、社会保障の関係もあり、働く保護者の増加により保育所機能を求める声が多く、これに対応し安定的な園児確保を図るため預かり保育についても積極的に対応する。

(5) 「学園グループとの連携」

学園グループで締結した、「保育・教育・研究連携協定」に基づき、更に交流を深め効果的な連携に取り組む。また、大阪国際中学校高等学校との交流を更に深め活動内容の幅を広げていく。こども園においては、保育者の専門性の向上が不可欠であり、保育教諭が大学教員から直接指導を受けることで、保育教諭の資質向上につなげていく。また、保育現場や大学教育にとって保育者養成の重要性が増している中、幼児保育学科との連携を強化するとともに短大とこども園との協働により保育者養成を充実させる。

以 上